

神道夢想流杖術 福岡劔杖塾

神道夢想流杖術には併伝武術として、神道流劔術、内田流短杖術、中和流短劔術、一心流鎖鎌、があります。江戸期より福岡では連綿と伝えられた術技を変える事無く継承し、現代に伝えていきます。

演武者

神道流劔術

流祖 夢想権之助は、神道流劔術の術技をもとに杖術を編み出したと言われており、劔術の形として大太刀の形（八通）と小太刀の形（四通）が併伝されています。

内田流短杖術

内田流短杖術は、安政の頃、内田良五郎が考案して以来、神道夢想流杖術と共に継承されており、別名ステッキ術とも言われています。杖の長さは約三尺、直径約八分とされていますが、体に応じて長くも短くも自分の杖・ステッキとして使用しやすいものを使います。

中和流短劔術

流祖は、丹波の住人小谷惣右衛門とされており、黒田藩に伝承されました。一角流十手術とほぼ同じ技法となっています。

一心流鎖鎌術

今から約六百年前、我が国武道史の源流をなす念流の始祖として名高い「念阿弥慈恩」によって創始されたと言われています。現在では神道夢想流杖道の併伝武術の一つとして伝えられています。一心流鎖鎌術は、鎌と分銅を鎖で結んだ「鎖鎌」と「太刀（木刀）」で行う形武道です。斬り込んでくる太刀に対して、鎖を巻き付けたり、鎌で斬ったり、分銅を投げたりして応じる技が伝えられています。

免許皆伝

奥入	奥入	奥入	奥入	奥入	奥入	奥入	奥入	奥入	奥入	奥入	目録	目録	目録	目録	目録	免許	富永
村瀬	山中	宮崎	橋本	灘	永田	蒲生	小川	江藤	入来	石橋	江藤	山本	城台	小川	月成	米田	彰三
佳史	征生	清治	能弘	真由美	良臣	清一	千賀子	ルミ子	麻里	玲子	友子	みゆき	順子	直人	元敏	廉	

大日本兵法 新陰流 福岡 旭心会



全国居合道連盟
新陰流 旭心会 教士七段
代表

津留崎 利雄 昭和八年生

新陰流、戦国時代、『上泉秀綱』が陰流などに学んで創始し、本来の表記は新陰流。室町時代末期『上泉伊勢守秀綱』が創案し、始祖となる。『愛洲日向の守移香齋』の陰流の流れをひき、自己の心影に敵の心影を即座に映し、相手を制する事を主眼とする。

のち『柳生石舟斎宗嚴』は初め新当流の達人であったので、新当流の居合、その他に新陰流、『流租上泉伊勢守』の孫の上泉孫四郎の無楽流上泉派の居合。関口流の居合にも柳生家に伝えられている。

殺伐な実践剣法を取らず、むしろこころ心に趣をおく流派と言われている。当会は、愛知県名古屋市の、初代より伝授された、

『鹿嶋清孝 範士』は、昭和六年 柳生家一四代（新陰流正統二〇世）柳生達巖長師に師事する。昭和一二年三月柳生巖長師より、『柳生流兵法抜刀目録』免許を授けられる。

昭和一三年七月一七日先師は精勇館道場を再建される。同道場で柳生巖長師を招き門人に『居合』の教授をお願いした。その際柳生巖長師は、これぞ本当の新陰流の居合と認める。

これ以降『新陰流居合術』称する事になる。そこで、洗心会 秋田森治 八段範士よりご指導を受けられた、旭心会 初代 古川 實 教士八段の教えを、後進に伝承する心を以て風格、気位、気品高く円熟した個性味あふれる居合。

静中動あり、余裕と品位ある、くせのない流派を超えた居合を皆さんと共に続けていく所存です。



古川先生を囲んで

演武者

教士七段 津留崎 利雄

五段 平山 好一

大東流合気柔術 光道本部

幸裕会



大東流合気柔術
師範

錦戸無光

大東流合気柔術は約900年の歴史の流れの中で、先人たちの厳しい血のにじむような研鑽を経て、他流では見られない、気を合する合気の世界に到達した武術である。

清和天皇の末孫である新羅三郎義光公に始まり、明治になって、大東流中興の祖と呼ばれる稀代の達人、武田惣角先生により世に広められるまでは、甲斐武田家と会津藩の一部上級武士及び、奥女中のみ伝えられる門外不出の秘伝武術とされていた。武田先生の教えは力の強い体力のある人々には柔術（主に逆手、関節技）を教え力も体力もない人々には合気（合する気）の技を伝えた。

※大東流各流派により技が違う理由がこれである。

中でも永世名人堀川幸道先生は病弱で体力もなかったので、純に《合気》を教え伝えられたのである。当流派は堀川先生から錦戸師範に伝えられた、合する合気を伝える会派です。

人の体は本来「気の体」なのであり、この体の気を合して使うのが合気なのである。（錦戸師範）合気（光道及び幸祐会）の稽古は、まず気の体をつくる事。その為に気の体になるのを邪魔する無駄な筋力を捨てる事から始める。

これは合気の基本技の稽古を通してつかむことができ、全身が気の体になった人に合気を教える。合気の稽古を練磨すると、気が益々身について強靱な合気体になる。

こうして病弱な体力のない人でも強靱な体になる。合気の技は、相手の力をすべて奪い取ってしまうのである。

相手の力を利用するのではなく合気で奪い取るのである。合気が身についたら相手の力を奪い取ることができるのである。

堀川先生は合気が身についたら恐ろしいと言った意味がこれである。光道及び幸祐会では合気修得のために二つの目を使う稽古を指導する。

一つの目は肉眼である。これは見える世界を見る眼である。

一つの目は心眼である。これは見えない世界を観る目のことである。

この心眼で観る稽古をすることによって見えないもの（気、合気）が観えるようになる。

光道及び幸祐会では、これを最初から指導する

演武者

光道本部

本部長	古賀武光
師範	江川龍一
師範代	加藤己久生
師範代	大古場康男
師範代	瀬戸山博紀
師範代	鹿丸美千也
奥参段	寺田耕作

幸裕会

代表／師範	甲斐田裕文
行司元／代理師範	持永英輔



堀川幸道 先生

戸山流居合道 福岡県連盟



戸山流居合道
福岡県連盟会長
範士九段

門川 正輝

福岡県連盟会長としてご挨拶を申し上げます。

戸山流居合道とは、戦前までであった陸軍戸山学校（東京都新宿区戸山に所在）において、明治から大正にかけて活躍された中山博道範士、斉村五郎範士等々の当時日本を代表する剣豪の先生方を中心に研究された日本刀の練法を、昭和五十年九月に戸山流居合道連盟として発足したものであります。数多くある居合道の中では比較的新しい連盟であります。その特色とする所は、立ち技主体の極めてシンプルな居合道です。

福岡県戸山流連盟は、昭和六十一年十月に発足して現在に至っています。

県連盟は、前川原支部（久留米市・鳥栖市周辺）、大刀洗支部、朝倉支部、宝珠山支部、北九州・遠賀支部、田主丸支部と県外の鹿児島支部の七つの支部で活動しています。

居合道は、人として必要な「基本・基礎的動作」の重要性を居合道の稽古を通じて認識することが出来ます。即ち、単純な動作（基本の形）を繰り返し繰り返し行うことにより形の本質的事項を修得すると共に日常生活における基本的事項である、相手を思いやる心、感謝する心等の現在、忘れかけている事項を身をもって体感することが出来ます。

居合道は馴染みが少ない武道ですが、やり始めると奥が深く興味津々な武道と言えます。また、年齢・性別に関係なく身体に負担を掛けることなく楽しみながら、自分に合った進度で技量を磨ける武道です。

興味のある方は、気楽に私共の稽古場（道場）にお出で下さい。懇切丁寧に説明致します。また、ご加入頂いたら初級段階から一緒に稽古しますので安心して頂けると思われます。それぞれの稽古場（道場）でお待ちしております。

演武者

錬士六段	奥田善行
錬士五段	竹谷浩二
五段	安田健一郎
四段	佐田秀文
四段	平嶋典良
四段	師岡司加幸
参段	浅谷次郎
式段	河野友成

福岡県連盟会長

門川 正輝 範士九段

プロフィール

陸上自衛隊 幹部自衛官OB
全日本銃剣道 教士六段、柔道三段
＜過去の大会成績＞

- ・第六回 戸山流居合道全国大会 団体戦優勝（大将）
- ・第七回 戸山流居合道全国大会 団体戦優勝（大将）
- 同 個人戦 高段者の部 優勝
- ・国民体育大会参加 平成十一年（熊本）、平成十二年（富山）
- ・平成十四年（高知）、佐賀県銃剣道代表（大将）として参加